

地域防災拠点へ避難したら ペットの受入準備を協力して行いましょう

備蓄庫



①防災備蓄庫からペット避難所開設キットを取り出します

拠点運営委員会の方に確認しながら行います

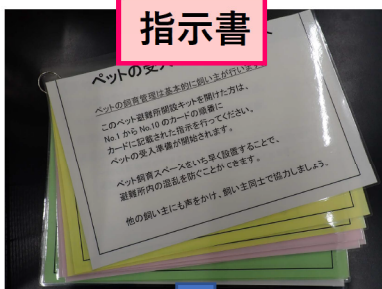
②ペット受付と一時飼育場所の設営場所を確認します

一時飼育場所：

ペット避難所開設キット



指示書



ペット受付



一時飼育場所



④飼育管理は飼い主が行います



キット内に場所がわかる図等を入れておこう

指示書

文具

様式類

シート・ロープ

③指示書に沿ってペット受付、一時飼育場所を設営しペット受入を開始します

〈平常時にできること〉

- ・トラブルが起きないようルールを決めておきましょう
- ・避難訓練で設営（上の①～③）をやってみましょう

キット内のルール案が参考になります



平常時

【飼い主のすべきこと】

◇ 避難生活に備えた最低限のしつけ

(おいで、まて、ケージやトイレのトレーニングなど)

⇒ 他者への迷惑防止だけでなく、

ペット自身のストレス低減につながります。



◇ 健康管理（ワクチン・不妊去勢 等）

⇒ 避難生活は他の動物との接触が増えるため、感染のリスクが高くなります。

普段からペットの健康管理に注意しましょう。

◇ 飼育手帳・写真等の準備と記録

⇒ ペットの特徴（飼い主・病歴など）を記載した飼育手帳を用意し、ペットの情報を整理しておきましょう。

安心手帳

非常時の備品を5日分は用意しましょう
(できれば7日以上)

- ☐ フード 水 食器
- ☐ 使用中の医薬品 薬
- ☐ 予備の首輪、リード、洗濯ネットなど
- ☐ ペットシーツ 寝具の類など
- ☐ トイレシートペーパー 新聞紙など
- ☐ ビニール袋
- ☐ キャリーバッグ 折り込みのケージ
- ☐ その他:

memo

安心手帳



◇ 飼い主明示（鑑札・マイクロチップ・迷子札の装着）

⇒ 災害時には、ペットと離れ離れになってしまうおそれもあります。

保護された場合、すぐに再会できるように、鑑札やマイクロチップを装着し、飼い主の明示を行いましょう。

◇ 非常用持出し品の準備（一例）

⇒ ケージやキャリーバッグ：避難所には原則用意されていません。

5日分の薬やフード、水：支援物資として届くまでは自身での準備が必要です。

リード・首輪：逸走して離れ離れにならないように…

トイレ用品（シーツや砂）：ペットが使い慣れたものを用意しましょう。

避難時はケージでの生活が基本になります！



持ち出し品の例